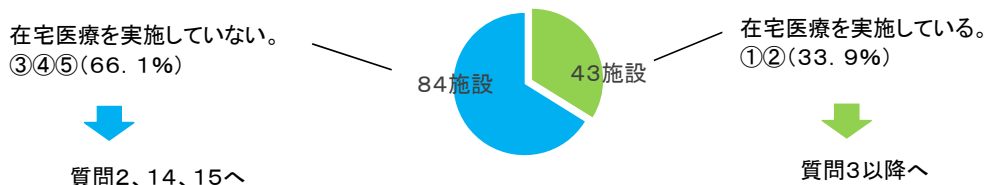
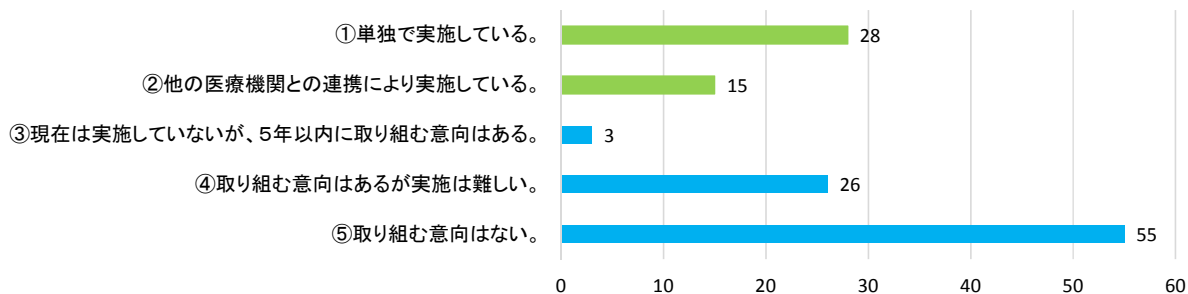


在宅医療に関する調査結果(病院・診療所用)

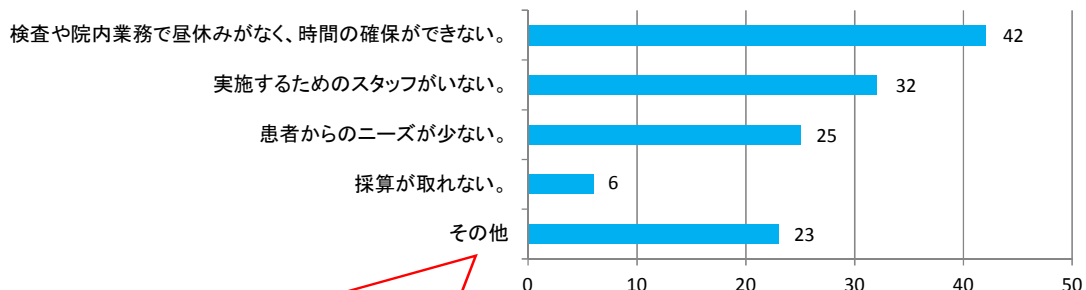
～東名古屋医師会 在宅医療サポートセンター調査～

- ◆調査実施期間 平成27年3月26日～4月3日
- ◆調査医療施設数 154施設 (豊明37 日進61 長久手32 東郷24)
- ◆回答医療施設数 127施設 (回収率: 82.5%)

質問1 在宅医療を実施していますか。また、今後、在宅医療に取り組む意向はありますか。

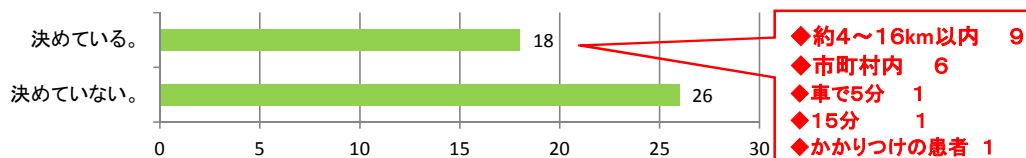


質問2 在宅医療を実施していない理由は何ですか。

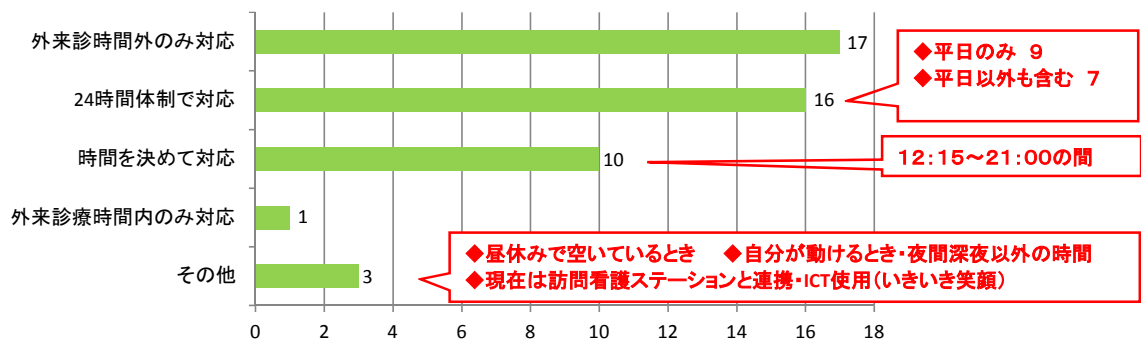


- ◆開業してまだ3年目です。あれもこれもすべてはまだ困難です。
- ◆高齢のため ◆体力的に困難と思われる。 ◆あまり体力に自信がない
- ◆通所リハビリテーション(デイケアセンター)を行っており現状では業務拡大は困難
- ◆皮膚病についてのみ往診している。今後も同様の予定
- ◆専門領域の診療に専念するため ◆精神科領域のため
- ◆眼科専門医のため ◆整形外科のため ◆介護老人保健施設のため
- ◆専門は異なるため。往診は行っておりません。 ◆科目的に必要性が低いと思われるため
- ◆小児科診療所のため。小児の在宅医療に関しては、そのニーズや方法など、これから勉強した上で 考えていこうと思っています。

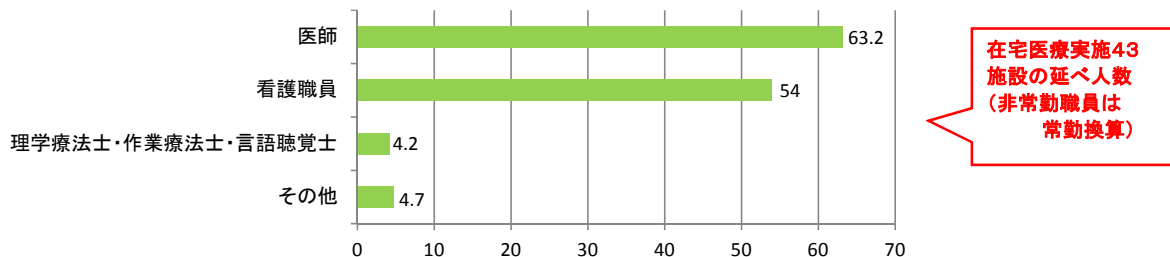
質問3 訪問診療を行う対象範囲を決めていますか。



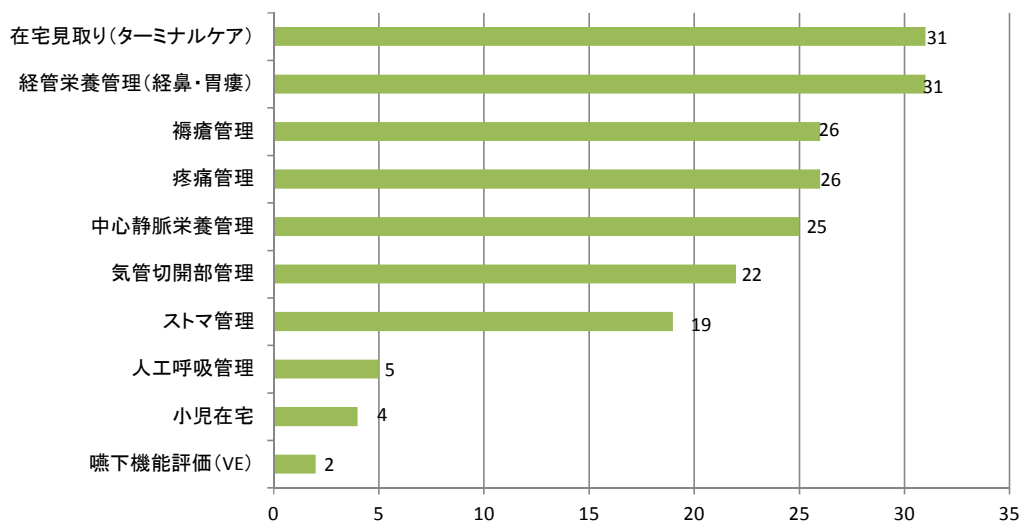
質問4 訪問診療に対応する時間を決めていますか。



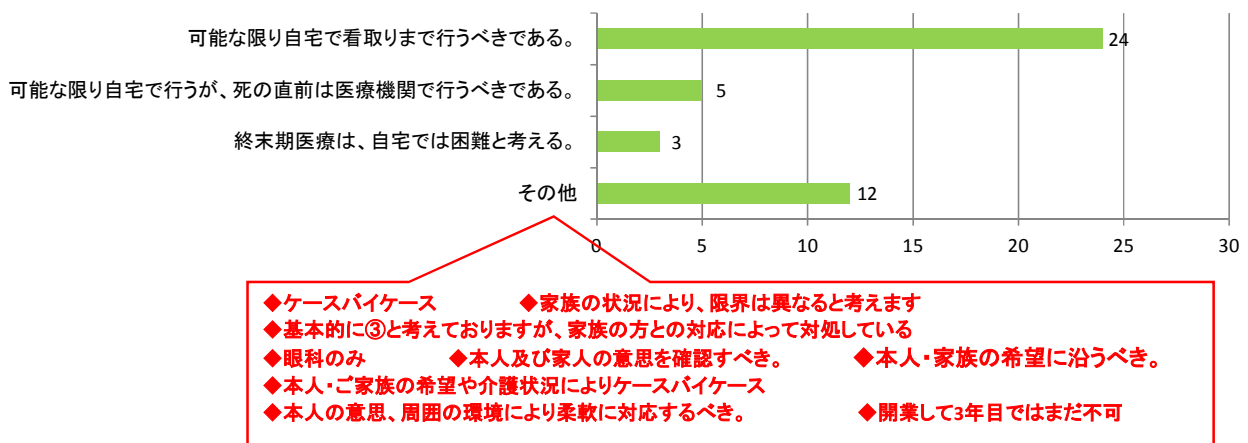
質問5 訪問診療の従事者数について



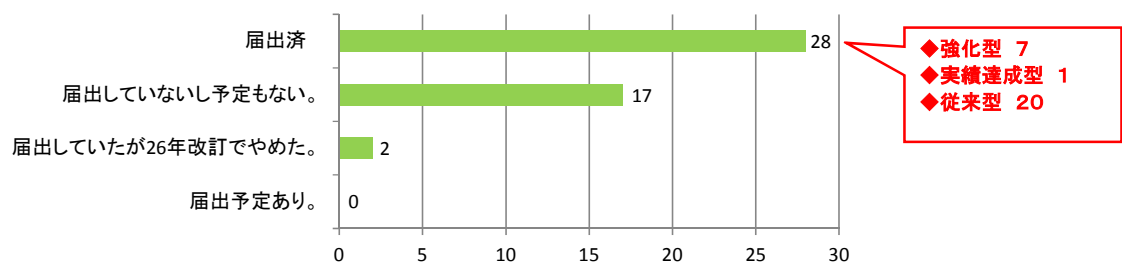
質問6 貴施設で対応可能なものに○を付けてください。(複数回答可)



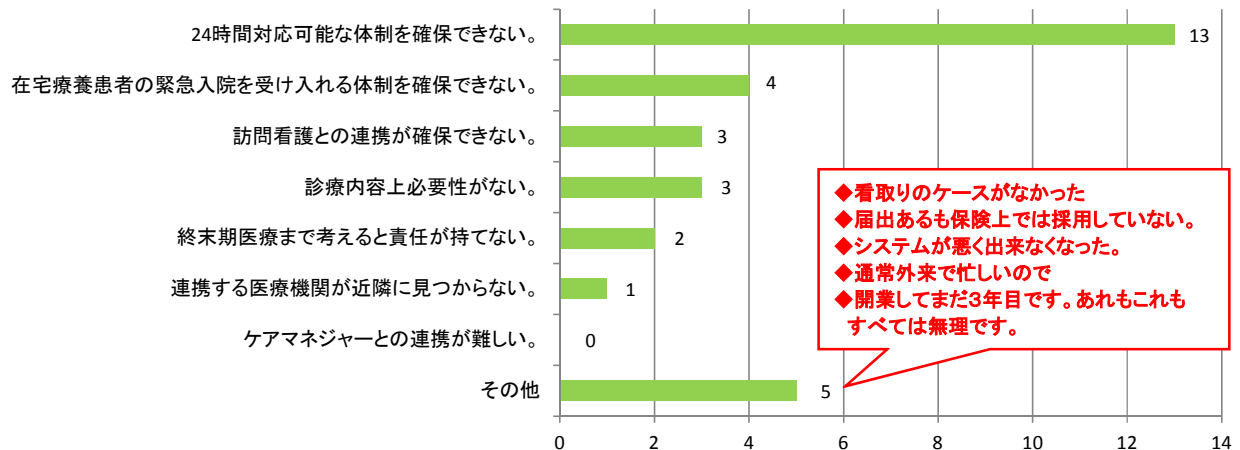
質問7 在宅で終末期医療を行う場合の限界について、どのようにお考えですか。



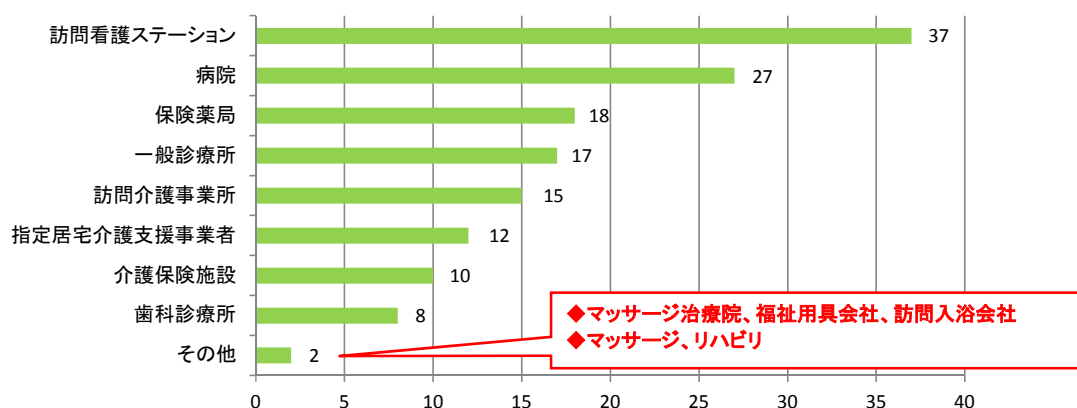
質問8 在宅療養支援病院、診療所の届出についてお聞きます。



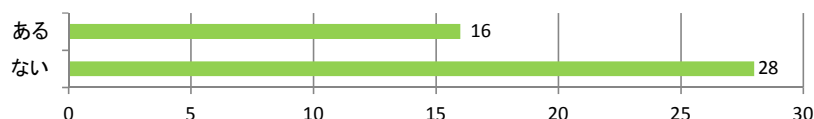
質問9 在宅療養支援病院診療所の届出をしていない理由についてお聞きます。(複数回答可)



質問10 在宅医療に関して連携して診療を行ったことがある機関はどこですか。(複数回答可)



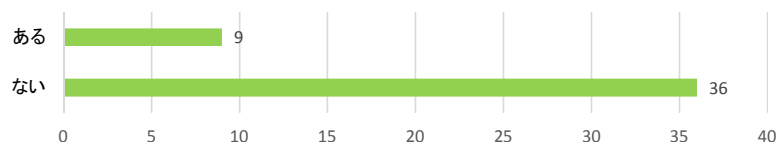
質問11 訪問看護ステーションとの連携で困ることはありますか。



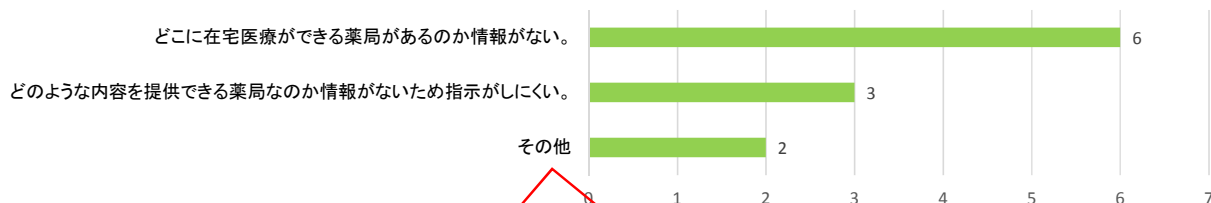
ある場合の理由は何ですか。(複数回答可)



質問12 薬局との連携で困ることはありますか。

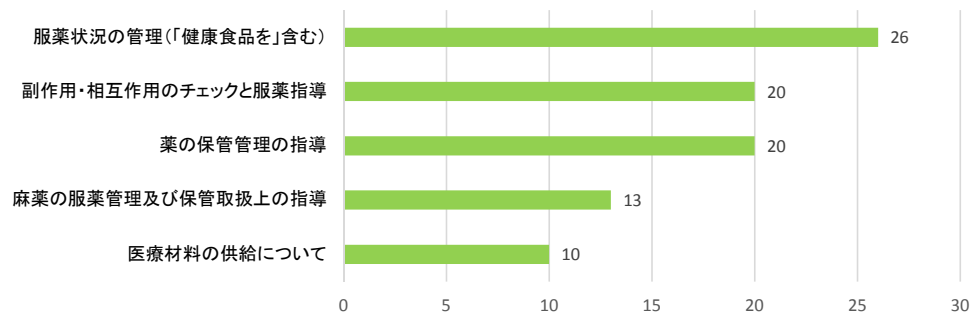


ある場合の理由は何ですか。(複数回答可)

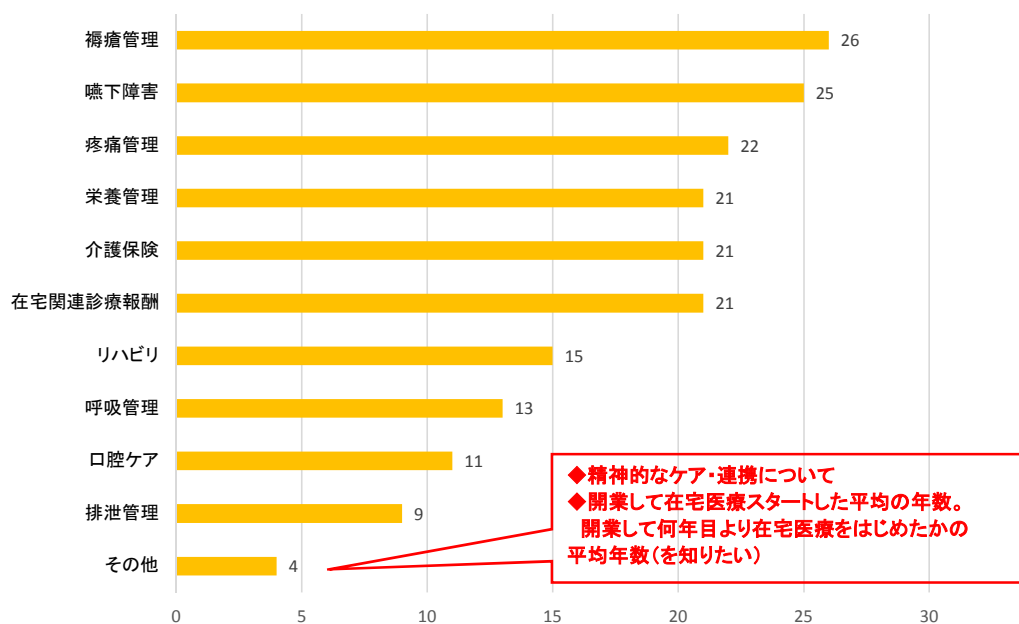


- ◆24時間薬局がない、ジェネリックを他に変更されてしまう
- ◆営業時間外の対応が不可

質問13 薬局との連携により充実したい内容は何ですか。(複数回答可)



質問14 在宅医療に関する勉強会のテーマでご希望があったら○で囲んでください。(複数回答可)



◆小児科関連でも必要とは思いますが。地域として今後考えていただけたらと思います。

◆耳鼻咽喉科は花粉の時期はまず不可能です。開業して年数がたつて在宅医療可能になるのは約5年以上は勉強しないと難しいのでは？

◆当院は心療内科・精神科を標榜する診療所で、在宅医療では患者さんの精神面のケアを行っています。この調査の趣旨に沿っていないかもしれませんが、よろしくお願い申し上げます。

◆若い医師がどんどん実施して頂きたい。私のような老木はもう少しでアウトです。24HR対応ができなくなってきたらもう限界と考えるべきと思っています。

◆強化型となる連携病院がない。

◆在宅医療の果たす役割、期待はますます拡大してくると思われる。一方、地域住民の在宅死に対するハードルはいまだに高く、せつかく環境が整ったとしても、いざとなると病院での最後を望まれる場合が多い。家で死んでもいいんだ、私でも看取することができるんだ、という意識を持ってもらえるような市民に対する教育が必要と思われる。また、在宅医療の環境を整えるうえで、関係職種とのシームレスな連携体制は不可欠であり、その方法やソフトの検討も早急に検討しなければならないと感じる。

◆在宅医療サポートセンターとは、失礼ながら何のことですか？ 運営は国、県、市？何を実のところされるセンターですか、教えてください。（その目的は？）運営団体は医師会ですか？

◆終末期医療、看取り、24時間体制は、Dr1人ではかなり難しい。連携していても、実際には、いろいろと課題が多くあります。患家の意識の問題もあるが、信頼しているDrにみてもらいたいと願っており、自分が訪問できない時、他の医師にはお願いしにくい。当院では非常勤医師に手伝ってもらっているが、それでも綱渡り状態で現在に至っている。

◆クリニックにかかりつけの患者さんで在宅療養を希望される患者さんは、基本的に主治医が診るべきだと考えますが、外来診療中や他病院での当直アルバイト中の病状悪化・急変には対応できないため、在宅に特化したクリニックではなく、医師1人の一般クリニックでしっかり在宅医療を行うことは難しい気がします。

◆小児在宅医療には関心があります。対象の患者様がおられましたらご連絡いただけますと幸いです。

◆当院として、主治医や患者様の要請によって往診は実施しています。在宅医療として、定期的な診療はしていません。

◆現状で当方では在宅医療は不可能です。必要な患者さんが出た場合は、他の先生方よろしくお願い申し上げます。

調査に御協力いただき、ありがとうございました。

東名古屋医師会在宅医療サポートセンター

TEL 0561-75-5512

FAX 0561-75-5517

E-mail : e-nyg-zaitaku@mb.ccnw.ne.jp